



今月の表紙は、2月5日に坂崎保育園で開催された「おじいちゃんおばあちゃんとおそぶ会」です。いろいろなゲームで遊んだ後、おじいさんおばあさんに手作りプレゼントで感謝の気持ちを伝える瞬間の、女の子の少し照れる仕草、その姿を笑顔で見守るおばあさんの優しい表情がとても印象的でした。▲別シムットの写真

今月の表紙

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課情報G
E-mail:kikakujo@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線344)
FAX63-5139

行って! 見て! 納得! こうたの歴史

大場氏とその史跡

深溝といえば深溝松平氏が頭に浮かびますが、松平が治める以前の深溝はどのような状況であったのでしょうか。

松平支配以前の深溝一帯は、大場(庭)氏とよばれる豪族が治めていました。鎌倉時代末に深溝を本拠地とした大場氏は、深溝城を築き、菩提寺として長満寺を建立します。その後、松平家に滅ぼされるまでの200年近くこの地を支配しました。大場氏は足利氏に従う豪族であり、長満寺を建立するにあたり、足利尊氏の叔父にあたる人物を開山として招いていることから、足利氏とは強固な関係を築いていたことがわかります。

それならば、深溝には大場氏関係の史跡が残っているのでは、と考える人も多いと思います。しかし大場氏に関する史跡は僅かしかありません。松平氏との勢力争いに敗れた大場氏は深溝から追い出されます。戦争、そしてその後の

松平氏の支配の中で、大場氏関係のものは次第に姿を消していったのでしょうか。現在、里区には深溝城跡、長満寺、そして長満寺の境内に築かれている大場氏墓、の3つの大場氏に関する史跡が残っています。

深溝の地は平坂街道が通り、深溝街道と横須賀街道の起点をもつ交通の要所です。その深溝に着目し城を築き、高名な僧を招いて大寺院を建立した一族がいたことを、長満寺の境内奥に残る2基の墓石が静かに語っています。



[参考資料 地域史深溝 ほか]
問合せ 生涯学習課生涯学習G
(内線195)

みんなの作品展!

平成24年度 少年消防クラブ員防火作品展
からのセレクトです



大竹 未来 さん



小池 紗都 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課情報Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで)

「よーいわん」

「よーいわん」

3月。定年を迎えるお父さん、これから始まる、第2の人生に誘ってくれるのはいいけれど、「よしッ、二人して世界一周でもせるか?」「よーいわんわ」

この「よーいわん」の「よー」副詞「よく」が転じた「よー」とは字面も同じですが、全く別の言葉なのです。何が違うか、まず、抑揚です。前者は、「ヨオ」と後の「オ」を強く発音しますが、後者は、「ヨオ」と前の「ヨ」を強く発音します。前者の「よー」は、動詞「(得)」「(え)」「(得)る」の文語)の連用形「え」が転じたものといわれ、下に動詞の打消しを伴って「とつていっできない」と不可能を表す副詞となります。

ですから、この「よーいわん」は、直訳すれば「とつていっ言っことができな」という意味になります。相手が放った言葉に「あきれでもの言えな」と絶句した状態を表す慣用句として、関西地方だけでなく、この地方でもよく使われます。

(文)こまね



青春トークリレー

△△第240走者△△

ながた こうき
永田 光輝 さん

岩堀区在住 21歳 職業 学生
身長 179cm 血液型 B型
好きなタイプ 人の立場になって考えられる人

好きな芸能人など 松井秀喜

野球しかしてこなかった私も21歳となりましたが、いまだに叱られることが多々あります。わんぱく坊主だった私は、多くの人に迷惑をかけてきたと思います。その都度厳しく注意をしてくださり、見守ってくださった人の優しさや温かさを痛感しています。「叱ってくれる人」の存在の大きさ、大切さを改めて感じます。私と心から向き合ってくださった多くの人がいること、本当に恵まれていると思います。

今の私には大きすぎるかもしれませんが、教師になるという目標を持つようになりました。私に多くのことを教えてくださった人のように人と真正面から向き合える、そんな大人になりたいです。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



わんぱくどより

「某月某日
大草保育園」

蛾・蛾になっちゃった!

園の花壇で青虫と黒色をした芋虫を見つけました。「黒虫は黒いバツタになるんじゃない?そいで緑のは、白に進化して、白いバツタ。」違っよ。黒は黒蝶。緑は葉っぱ蝶。「私、ピンク好きだもん。ピンク蝶になるといいな。」子どもたちの発想はおもしろい。

青虫を手にしたので、「青虫君、新幹線みたい。手がくすくすしたい。よろよろ動くね。」黒虫を手にしたので、「黒虫君はクルンと丸まった。恥ずかしいのかな。」子どもたちの感性はおもしろい。



こんな始まりで、青虫と黒虫を育ててみることにしました。エサはブロッコリーの葉。ある日飼育ケースを覗くと、ブロッコリーの葉が葉脈だけになっていました。「おお。葉っぱがホネホネになってる。「青虫君たち、線は嫌いなのかな?」「食いしん坊なんだから。」子どもたちの表現はおもしろい。

▼この3月号を含め、今年度の広報こうたでは防災の特集を4度にわたりお送りしました。そこにはある理由がありました。インターネットで全国の市町村のいろいろな広報紙を見ていると、ふと、宮城県七ヶ浜町の平成20年6月号に目を奪われました。それは昭和35年に発生したチリ地震の津波が22時間後に同町に到着し、甚大な被害をもたらしたという内容とともに、20××年に宮城県沖地震が必ず発生するという内容を。過去の地震データを参考に「いつ来てもおかしくない」ことを伝え、自助(自分でできること)・共助(地域で助け合うこと)について書いているものでした。そして数カ月後の平成21年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生しました。同町は甚大な被害を受け、今も復興に向け歩み続けています。言葉は失うような被害の大きさではありませんが、僕は広報紙の情報が命を守る役割を持ち、1人でも多くの人の命を救ったと信じます。あまりにもタイムリーな特集だと気づいた時に背筋が震え、備えと情報の大切さを痛感したのです。広報こうたの特集では少しでも多くの人にと、いろいろな角度からの紹介でわかりにくい部分も多かったと思います。が、まずは自分の命を守ることに備えの重要性、情報の大切さを伝えたいからです。「今」できることを少しでも。なのです。(T)

ちょっと編集者のひびき

◀ 広報しちがはま 平成20年6月号